

2009／6／14 第39回土木計画学研究発表会(春大会)

シームレスアジア行政を担当する立場から 学会に期待すること

1. シームレスアジアの必要性……………P1～4
2. 提言を踏まえた取組み……………P5～8
3. 学会への要望……………P9～10

国土交通省国土計画局
計画官 八鍬 隆

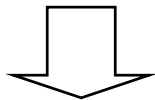
1. シームレスアジアの必要性

(1) シームレスアジアとは

アジアにおいて、国境やシステムの相違を感じさせない、いわば継ぎ目のない人、物、情報の移動を可能とする交通・情報通信ネットワークの構築

(2) シームレスアジア必要性の背景

- アジア各地域の急速な経済発展による交通量の急激な拡大
- 東アジア規模での生産ネットワークの構築による企業のロジスティクス戦略からの要望
- 2015年ASEAN経済統合及びEPA、FTA等の経済連携の活発化



本年4月 麻生首相が表明

- アジア総合開発計画の策定
- アジアのインフラ整備のために、2兆円規模のODAの他に、新たに民間投資を推進するため、2兆円の貿易保険枠の設置

(3) シームレスアジア推進に向けた提案

- ① 土木学会国際交通ネットワーク戦略研究小委員会の政策提案(骨子の抜粋)
(H18.7.25)

(戦略目標) シームレスアジアを支える国際交通戦略の実現

戦略1 汎アジア共通交通政策の策定及び推進

戦略2 統計データベースの整備、社会・経済シナリオ策定、需要分析・予測、
セクター改革等に関する手法開発のための国際学術連携

戦略3 我が国地域とアジア諸都市の直接交流、連携を支える交通回廊、
ネットワーク計画の策定、推進

- ② EASTS「大連イニシアティブ」(H19.9.24)

シームレスな交通環境を通じてアジアの持続的発展を図るための戦略的アプローチ

1、アジア共通交通政策の立案

2、各国政府による交通回廊・ネットワークの形成に向けた先導的役割の推進

3、共通交通政策の立案、実施及びモニタリングのための専門家ネットワークの設立

(4) アジア共通交通政策が必要な理由

- 汎アジアレベルで優先順位が高いプロジェクトを選定し、整備することが効率的、効果的
- 特に国境地域の道路等の整備には、関係者間の負担等の調整が必要
- プロジェクトのリスク分析により、民間投資家の投資の判断が促進



各国、投資家の同意を得るためには、統一的で正確な交通統計データに基づく定量的な分析が不可欠

(EUの例)

- EU全体を対象として汎欧州交通ネットワーク構想(TEN-T)を推進
- TEN-Tの推進にあたっては、ESPONが大きな役割
- 統計データ、情報は、EUROSTATが提供

ESPON (European Spatial Planning Observation Network : 欧州空間計画観測ネットワーク)

- ◎EU主導で設立された研究機関のネットワーク。EU25カ国＋ノルウェー、スイス
 - 目的: EU政策による影響・効果の分析、成果の政策への活用
 - 内容: 調査テーマを決めてその実施機関を公募し、補助金を交付
 - * 3カ国以上の研究機関の多国籍チームであることが応募要件
 - * ESPON第1期(2000－06年)は、1,750万ユーロ(29億円)で34プロジェクトを実施
 - 体制: 管理委員会 (Monitoring Committee)・ESPONの意思決定機関
 - 【加盟国政府の国土計画担当省庁の代表が参加】
 - －調査テーマの決定、実施機関の選定
 - 事務局 (Coordination Unit)
 - －進捗状況の管理、成果の確認

EUROSTAT

- EU唯一の統計機関
- 組織は、7つの総局から構成。交通統計は、Business Statistics を扱う
Directorate G が所管
- 各国総計局からデータを収集
- 収集するデータは、法定データと随意データがあるが、後者も提供が義務づけられている。

2. 提言を踏まえた取組み

(1) アジア交通統計データの課題の把握

「アジアの交通統計に関する検討ワークショップ会議」(第1回(H20.3)、第2回(H20.10)実施)を通じて明らかになった課題

- ①一部の国(例えば、ベトナム、ロシア)においては、データ機密性保持の考え方から入手出来るデータが極めて限定的
- ②データの定義、データの単位等が不統一
- ③一部民間企業が提供している統計は非常に高価
- ④統計に使用されている言語が母国語だけというケースがある
- ⑤データの維持管理主体・費用の問題
- ⑥データの所在が分かりにくい
- ⑦越境交通、インターモーダル輸送について調査されていない



- データの標準化・共有化が急務
- 各国、各機関が協力して汎アジアレベルのデータ整備が必要

(2) データの標準化、共有化等のためのプロジェクトの企画

① プロジェクトの目的

- 各国の交通研究者、専門家の研究の推進に資するためのデータの標準化、共有化
- ASEAN諸国等がデータを取得する際の指針づくり
- 将来のアジア交通統計データベースの構築に向けた検討

② プロジェクトの内容

- アジア各国の交通統計データの現状把握
- 単位等が異なっている各国データの換算方法の検討
- データの整理、データリストの公開及び原データとのリンク
- データの取得方法等について標準化案の検討及びガイドラインの作成
- 人材育成のためのセミナー実施
- データベースの概念設計、データベースの整備・維持管理主体の検討

◎上記プロジェクトについて、ADB等国際機関と調整していく

(3) アジア交通研究者ネットワークの構築

◎アジア共通交通政策の作成に向けて、本格的な研究者ネットワークの構築が必要

○ 研究内容例

- ・アジアの交通の実態の研究
- ・アジア交通ネットワークにおけるボトルネックの抽出手法や交通政策の評価手法の研究
- ・アジア共通交通政策の指針の提案
- ・各国における交通政策のモニター
- ・汎アジアレベルにおけるマルチモーダルにおけるシームレスな交通ネットワーク形成のメリットについての情報公開

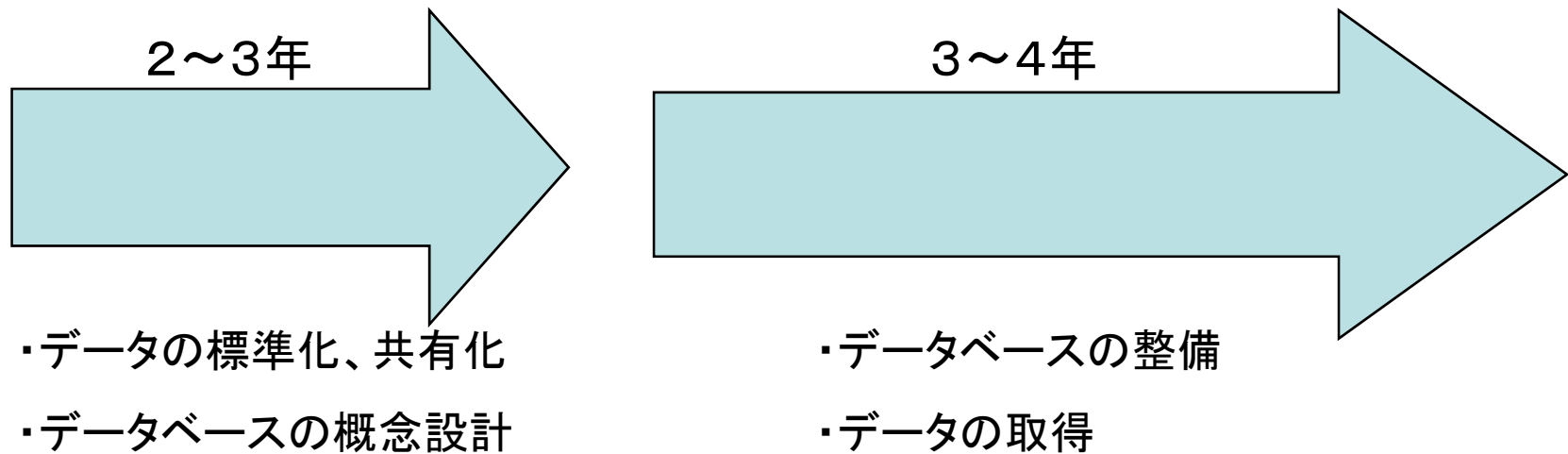
◎当面の課題に対する情報提供と意見交換のために「暫定ネットワーク」の構築

○ EASTS IRG02 のHPから接続可能 (<http://www.t-log.info/>)

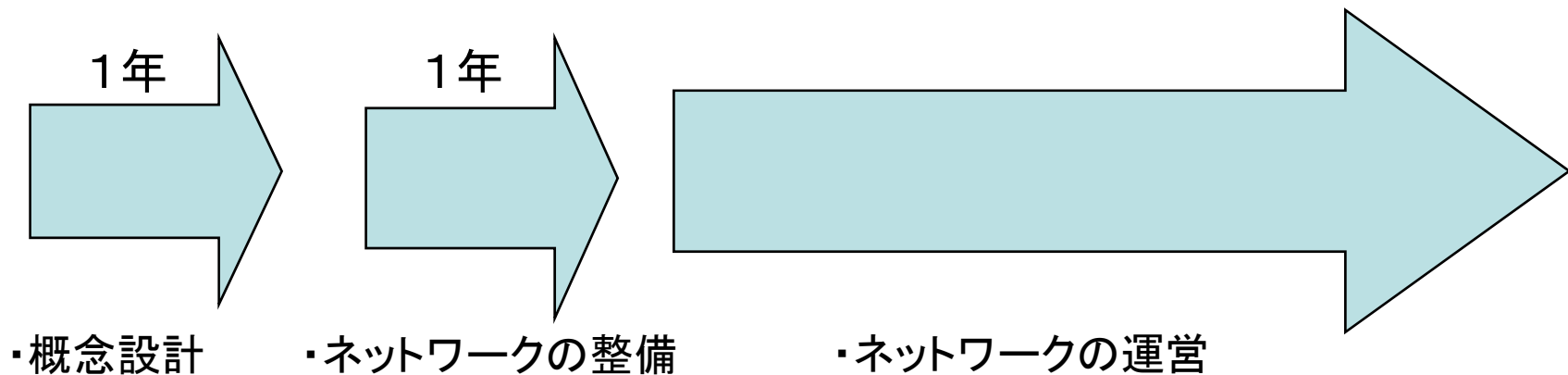
○アジア交通統計データの整備について情報提供の予定

(4) 工程イメージ

① アジア交通統計データのデータベース化



② アジア交通研究者ネットワークの形成



3. 学会への要望

(1) 土木学会国際交通ネットワーク戦略研究小委員会が示した 「交通専門家が自ら行うべき活動」

- ① アジアの域内及び域外との交通流動やインフラストック等のデータに関する仕様の共有化や共同データベース化
- ② アジアが共有すべき社会経済シナリオ及びフレームの設定
- ③ 交通需要・流動の予測や政策評価、モニタリング等の政策バックアップ技術の確立

に向けたネットワーク形成と率先した活動を目指すべき

(2) 学会への要望(当面の課題に対して)

①交通統計データの標準化、共有化等について

- データの標準化、共有化について助言、指導、意見交換
- データの標準化(換算方法、データの取得方法等の標準化)の研究
- データベース化のあり方についての提案、意見交換
- データ整備の必要性、効果についての研究及び対外的アピール
- アジアの研究者、専門家との意見交換、指導、新たなデータ取得の具体的な提示

②アジア交通研究者ネットワークについて

- ネットワークのあり方についての検討

③公共交通政策の検討のための研究

- 2カ国間の公共交通政策作成のための研究(交通需要予測手法、プロジェクト評価手法等)
- 公共交通政策の指針づくりのための研究